

日本宗教学会
第 67 回学術大会
2008 年 9 月 13 日～15 日



筑波大学（筑波キャンパス）

【13日会場】 大学会館 【14・15日会場】 第一エリア

大会日程

9月13日(土)

学会賞選考委員会	大学会館第6会議室	11:30～13:00
庶務委員会	大学会館第1会議室	13:00～14:30
国際委員会	大学会館第3会議室	13:00～14:30
情報化委員会	大学会館第5会議室	13:00～14:30
宗教文化士(仮称)検討委員会	大学会館第6会議室	13:00～14:30
開会式	大学会館小ホール	14:30～14:40
公開シンポジウム	大学会館小ホール	14:40～17:40
テーマ「現代社会における宗教学の役割を問う」		
講演	橋爪大三郎(東京工業大学)	
	竹村 牧男(東洋大学)	
	田中 雅一(京都大学)	
	藤原 聖子(大正大学)	
コメンテータ	山中 弘(筑波大学)	
司会	津城 寛文(筑波大学)	
理事会	大学会館特別会議室	18:00～20:30

9月14日(日)

研究発表(個人)	第一エリア各会場	9:00～12:40
評議員会	第一エリア1H101教室	12:40～14:00
研究発表(パネル)	第一エリア各会場	14:00～16:00
会員総会	第一エリア1H101教室	16:20～17:40
懇親会	第一エリア食堂	18:00～20:00

9月15日(月・祝)

研究発表(パネル)	第一エリア各会場	9:00～11:00
研究発表(個人)	第一エリア各会場	11:15～12:25
編集委員会	第一エリア1C402教室	12:30～13:30
研究発表(個人)	第一エリア各会場	13:30～16:45
プログラム委員会	第一エリア1C401教室	14:00～15:30

公開シンポジウム

「現代社会における宗教学の役割を問う」

趣旨

インターネットに象徴される科学技術の急速な発展を背景にして、驚異的なスピードで社会は変化し続け、これまで社会から一線を画していた大学や学問領域においてもそれぞれの学知の実践的応用が強く求められるようになってきている。短期的に目に見える具体的成果を求めてこなかった人文諸科学の領域でさえも、その学知の応用について議論が重ねられており、「臨床哲学」などという言葉も使われるようになってきている。

宗教学の場合はどうだろうか。世界各地における宗教をめぐる紛争や暴力の頻発、福音主義的キリスト教の成長など、現代世界における宗教の影響力が論じられ、日本でも四国遍路、写経、スピリチュアリティの流行が指摘されている。こうした議論の高まりの中で、一方に、平和や無私の社会貢献を推進するものこそ宗教だという声があり、他方で、戦争、暴力の根源には宗教ありと言う声も聞こえる。現代社会において、宗教ほど毀誉褒貶の落差の激しいものはないかもしれない。宗教に対する相矛盾する評価のただ中で、諸宗教を様々な角度から研究してきた宗教学の学知のあり方や役割が問われている。宗教学はどのように社会との接点を捉えてきたのか、また、その学知をいかに社会に向けて発信しようとしているのだろうか。

もとより、こうした問いかけは、宗教学の学知がこれまで現実の社会との接点をもってこなかったという認識に基づいているわけではない。宗教学の諸領域はそれぞれ固有の対象と方法によって、つねに社会と接触しながら、その学問的営為を続けてきたからである。しかし、急速に変貌する現代社会において、改めてその学知の社会的発信のあり方を問い直してみる必要が出てきているように思われる。宗教のプレゼンスの世界的な高まりのなかで宗教学の学知の必要性が増してきている今日こそ、われわれは、多様の諸領域を包摂する宗教学が未来に向けてどのような役割を果たしていくべきかを問わねばならないだろう。

以上のような問題意識に基づいて、このシンポジウムは様々な角度から現代社会における宗教学の役割を論じようというものである。

発題タイトルと要旨

日本宗教学への期待

橋爪大三郎（東京工業大学）

日本の宗教学は、日本に固有な社会的文脈のもとで発展してきた。また、人類学、民俗学、社会学、社会心理学、歴史学、マルクス主義などとの棲み分けのなかで、持ち場を守ってきた。宗教学のこれまでの発展は、世界的広がりの中でみた場合、日本社会の特性を十分に反映したものになっているだろうか。日本の宗教学ならではの独自の貢献はできないのだろうか。

世界からみて、何を信じているかわからない日本人が、どういう宗教体験と体系をもっているかについて、普遍的な言葉で整理し、世界に情報発信してほしい。

学問と社会および宗教学と現代—仏教学等をふまえて—

竹村 牧男（東洋大学）

そもそも学問もしくは知は、社会にどのようにかわるのか。学問の自律性の確保は必要であり、しかし社会とまったく没交渉であればその存在の維持はむずかしくなるであろう。人文科学は、社会の仕組みにじかに作用するより、社会の理念を描くことで、現状に対し批判的な役割を担いつつあるべき方向に主導する役割を発揮すべきかと思われる。

宗教学は、主に超越的存在を語る世界を対象としており、その契機をどのように明かしえるかによって、他の学問にはない独自性を発揮していくことができる。おそらくそうした宗教学こそが社会の根源的批判の学になりうるはずであり、その使命は軽くないと思われる。一方、現代に固有の問題があるのはいうまでもないが、それをどのように把握するかについては、各々の関心によって異なるのはやむをえない。私としては、地球社会のサステナビリティの問題は一つの関心のまとであり、この問題に宗教学、とりわけ仏教学や宗教哲学がどのような仕方がかかわりうるかは考えて行きたいと思う。

サステナビリティが問題になってきた背景には、確かに近代合理主義の問題があると思われる。また、サステナビリティの課題は、換言すれば未来世代のいのちあるものとの共生という課題であり、ひいては同時代におけるいのちあるものとの共生の課題でもある。このような問題に、仏教学や宗教哲学は、積極的に根本的な問題提起をなしていくべきであろう。

宗教学は誘惑する

田中 雅一 (京都大学)

宗教学の独自性とは何か。そして、その独自性がどのような貢献をわたしたちにもたらすのであろうか。そのためには、従来宗教学が特権的に研究対象としてきた信仰・信念や儀礼ではなく、それらの対立概念とみなされ、十分に議論されてきたとは思われない誘惑と、それが生み出す身体的・相互交渉的な実践に注目したい。

誘惑は、多くの宗教においてきわめつけの悪とみなされてきた。なぜ、そうなのか。誘惑に「乗る」ことで、わたしたちは判断を誤り、正しい道から踏み外し、身をほろぼすことになる。誘惑者に、そしてみずからの欲望に身をまかすことで、わたしたちは社会生活をおくるにあたって常時求められているはずの自立・自律性や協調性を喪失してしまう。このような理由から誘惑は反社会的で、悪とされるのである。

では誘惑者とは誰なのか。誘惑者はなによりも他者としてわたしたちの前に現れる。だが、そうした他者についての否定的な見解こそ、かれらを排除する根拠となつてこなかっただろうか。誘惑概念の転換は他者との関係性の転換に通じる。

わたしは、宗教学の知見を生かしつつ、あらたな社会のヴィジョンと共生的な人間関係の創出を目指すには、いままで否定されてきた誘惑に注目すべきであると考えます。その理由は二つある。まず、誘惑とは他者に能動的にはたらきかけつつも、自らの弱点をさらし、他者に能動的な関与せよ（乗れ）と語りかける動詞だということである。誘惑は能動と受動が逆転するような、主客を攪乱させる実践なのである。

つぎに、誘惑はなによりも身体的な実践だということである。それは、かならずしも理性あるいは合理的判断に基づいてなされるわけではない。そこには身体が重要な役割を果たしている。身体が介入することで、誘惑する者とされる者とのあいだに偶発性、開放性、(いい意味での)勘違いが生まれる。誘惑は、言葉で行うものではない。誘惑は、身体で、そして、その延長である声で行われるのだ。声とは、分節可能なメッセージ（言葉）の媒体などではない。それは、身体の延長なのである。

この二つの特質が、近代主義や言語中心主義の視点を揺るがし、エロスの世界を開示する。そこから、ロゴスの世界が確立してきた二元論的不平等関係（理性による感情の支配、精神による身体への支配、男性による女性の支配、人間による自然の支配、ヨーロッパ人による非ヨーロッパ人の支配・・・、そしてなによりもロゴスによるエロスの支配）に異議申し立てをおこなうことが可能となる。誘惑を中心テーマとすることで、宗教学は、他者との共生をめざすあらたな社会ヴィジョンをもたらすことができるのではないだろうか。かくして、宗教学はわたしたちをエロスの世界へと誘惑する。

宗教文化士と学士力認定制度が宗教学会になげかけるもの

—評価・アカウンタビリティの要請とその危うさ—

藤原 聖子 (大正大学)

昨年からは宗教学会内では宗教文化士制度、文科省では学士力認定制度が検討され続けている。今年6月には、学士力認定という高等教育の質保証システムに学会としても取り組むよう要請されることが明らかになった。両制度に共通するのは、臨床宗教学（例：生命倫理の宗教学、カルト対策としての宗教学）ではない、いわば「素（す）の宗教学」について、その社会的役割が問われているという点である。

この場合の社会的役割とは、学生と社会に対する宗教学のアカウンタビリティをも意味する。日本宗教学会設立以来、おそらくはじめて、アメリカのように学会としてのミッション・ステートメントを掲げ、イギリスのように宗教学としてのディプロマ・ポリシーを明示することが求められているのである。ここで興味深いことのひとつは、そのアメリカやイギリスの宗教学では、宗教概念や宗教学のアイデンティティを解体する試みもまた尖鋭的であることである。そのような宗教学批判と、学会のミッション・ステートメントやディプロマ・ポリシーはなぜ併存しているのだろうか。また、質保証と説明という社会的責任を果たしつつ、学の自律性と自由を守ることはできるのだろうか。

これまでの学会内での宗教文化士制度に関する審議では、その運営面での問題点に議論が集中し、「宗教に関する知識を習得することに資格を与える」ことが学問的にどのような問題を内包しているかについては十分に議論することがなかった。本発表では、宗教文化士制度と学士力認定の異同を整理した上で、それぞれの問題を指摘する。さらに、そうした問題は人文・社会系諸科学に共通するものか、宗教学会に固有のものがあるのか、逆に宗教学会ならではの強みはあるのかといったことまで論じていきたい。

第1部会

第一エリアC棟2階 **1C210教室**

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00-9:20 | エリアーデ文学における宗教思想—クリアーヌとの関連において— | 奥山 史亮 (北大) |
| 2. 9:25-9:45 | M. エリアーデの人間観とその形成 | 佐藤慎太郎 (東北大) |
| 3. 9:50-10:10 | シオランとエリアーデにおける「始原」 | 藤本 拓也 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | I.P. クリアーノの宗教学の全体的構想における方法と経験 | 佐々木 啓 (北大) |
| 5. 10:40-11:00 | デ・マルティーンノ宗教論の再検討 | 江川 純一 (宇都宮大) |
| 6. 11:05-11:25 | ライシテの歴史と社会学—学問と政治的発言のあいだ— | 伊達 聖伸 (日本学術振興会) |
| 7. 11:30-11:50 | ドイツ・ヴァイマル期の宗教思想と宗教学 | 宮嶋 俊一 (大正大) |
| 8. 11:55-12:15 | 「ドイツ信仰運動」—近代ドイツにおける—宗教の成立を巡って— | 久保田 浩 (立教大) |
| 9. 12:20-12:40 | ドイツ民族主義宗教運動における「解釈的同化」の問題 | 深澤 英隆 (一橋大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|------------------------------|---------------------|
| パネル | 情報時代の宗教文化教育の教材 | 代表者：井上 順孝, 6名, 120分 |
| 14:00-16:00 | 宗教系大学における宗教教育の教材選択の問題点 | 渡辺 学 (南山大) |
| | インターネット上の宗教文化教育教材の現状と利用上の問題点 | 平藤喜久子 (國學院大) |
| | 英米の宗教文化教育教材の展開とその問題 | 藤原 聖子 (大正大) |
| | 異文化教育の教材と問題点—イスラーム理解を中心に— | 塩尻 和子 (筑波大) |
| | | コメンテータ：磯岡 哲也 (淑徳大) |
| | | 司会：井上 順孝 (國學院大) |

15日(月・祝)

【午前】

日本学術会議哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会共催 日本宗教研究諸学会連合後援

- | | | |
|------------|------------------------------|---------------------|
| パネル | 「宗教的情操教育」をめぐる諸問題 | |
| 9:00-11:00 | 宗教学の立場から「宗教的情操教育」を考える | 代表者：氣多 雅子, 6名, 120分 |
| | 宗教的情操を考えるいくつかの視点—古代ギリシアとの比較— | 氣多 雅子 (京大) |
| | 道德教育における宗教的情操概念の変質と実態 | 葛西 康徳 (大妻女子大) |
| | 情操と知識の間 | 岩田 文昭 (大阪教育大) |
| | | 土屋 博 (北海学園大) |
| | | コメンテータ：桂 紹隆 (龍大) |
| | | 司会：宮家 準 (慶大) |

- | | | |
|----------------|-------------------------|-------------|
| 1. 11:15-11:35 | タラル・アサドの言語ゲーム論と宗教言語ゲーム論 | 松野 智章 (大正大) |
| 2. 11:40-12:00 | B. コンスタンの宗教進歩論 | 杉本 隆司 (一橋大) |
| 3. 12:05-12:25 | 道としての民衆宗教 | 福嶋 信吉 (昭和) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|-------------|
| 1. 13:30-13:50 | 宗教研究のヴィジョンと近代宗教論—大乘仏説論をめぐる— | 岡田 正彦 (天理大) |
| 2. 13:55-14:15 | 岸本英夫の昭和20年 | 奥山 倫明 (南山大) |
| 3. 14:20-14:40 | 宗教の定義再考 | 菱木 政晴 (同朋大) |
| 4. 14:45-15:05 | 宗教史の枠組における近代主権国家の意義 | 市川 裕 (東大) |
| 5. 15:10-15:30 | 日本宗教学のゆらぎ—科学か、啓蒙の学か、新神学か— | 中野 毅 (創価大) |
| 6. 15:35-15:55 | フリッチョフ・シュオンの宗教一元論 | 中村廣治郎 (東大) |
| 7. 16:00-16:20 | beyond について—ステヴンスから現在まで— | 井門富二夫 (筑波大) |

14日(日)

【午前】

1. 9:00- 9:20	プラトンにおける神義論の問題	土井 裕人 (筑波大)
2. 9:25- 9:45	テルトゥリアヌス『ヘルモゲネス駁論』における神の創造と質料	津田 謙治 (未来学園)
3. 9:50-10:10	プラトンの世界観形成に対するソクラテス的思考の機能	和田 義浩 (国士舘大)
4. 10:15-10:35	アスクレピオスの癒しの事績—エピダウロスの碑文の分析—	土屋 睦廣 (早大)
5. 10:40-11:00	原型に対する二つの見方—ディオニシオス文書とユング—	リアナ・トルファシュ (筑波大)
6. 11:05-11:25	「パースペクティヴ」と否定神学—クザーヌスの所論をめぐって—	島田 勝巳 (天理大)
7. 11:30-11:50	イアンプリコスにおける神的愛の紐帯、播種された“しるし”	堀江 聡 (慶大)
8. 11:55-12:15	アンセルムスによる聖母マリアの理解	山崎 裕子 (文教大)
9. 12:20-12:40	近世スコラ学的神秘神学の成立—カルメル会の場合—	鶴岡 賀雄 (東大)

15日(月・祝)

【午前】

1. 11:15-11:35	レヴィナスと承認の問題	末永絵里子 (京大)
2. 11:40-12:00	フランツ・ローゼンツヴァイクと“クレアトゥア・サークル”	丸山 空大 (東大)
3. 12:05-12:25	ナフマニデスにおける聖書の読み—説教と註解—	志田 雅宏 (東大)

【午後】

1. 13:30-13:50	マックス・ウェーバーと現代ヘブライ語聖書研究	高橋 優子 (立教大)
2. 13:55-14:15	批判後の信仰による素朴さの受け取り直し	岩田 成就 (立教大)
3. 14:20-14:40	古代キリスト教と人間愛 (フィランスロピア)	土井 健司 (関西学院大)
4. 14:45-15:05	M. ブーバーにおけるヘブライ語聖書翻訳の意図	堀川 敏寛 (京大)
5. 15:10-15:30	ユダヤ教研究の根本問題—高等批評の言葉のアナクロニズム—	手島 勲矢 (同志社大)
6. 15:35-15:55	パウロにおける「召し」の意味—ロマ書 8:30 をめぐって—	野口 誠
7. 16:00-16:20	マルティン・ブーバーと神経験	大川 武雄 (早大)
8. 16:25-16:45	自然の光、恩寵の光、存在の光	浅野 章 (日大)

第3部会

第一エリアE棟2階 1E205教室

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|----------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | ジェイムズの宗教的経験論における認識の問題 | 澤井 真 (東北大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 釈迦の悟り、祖師の悟り—語りえない宗教経験の継承— | 大村 哲夫 (東北大) |
| 3. 9:50-10:10 | ハイデッガーにおける神話的現存在の分析論 | 田鍋 良臣 (京大) |
| 4. 10:15-10:35 | ヴィットゲンシュタインのフレーザー批判に関する一考察 | 神尾 和寿 (流通科学大) |
| 5. 10:40-11:00 | 擬態としての現象—ミシェル・アンリの現象学— | 伊原木大祐 (北九州市立大) |
| 6. 11:05-11:25 | ユングにおける無意識と信仰 | 杉岡 正敏 (京都造形芸術大) |
| 7. 11:30-11:50 | ものを否定する、ものが否定する—形象と否定神学— | 佐藤 啓介 (聖学院大) |
| 8. 11:55-12:15 | 経験はいつ宗教的なのか | 堀 雅彦 (札幌学院大) |
| 9. 12:20-12:40 | R. オットーにおける深みの体験とその解釈 | 澤井 義次 (天理大) |

15日(月・祝)

【午前】

- | | | |
|----------------|-----------------------|-------------|
| 1. 11:15-11:35 | キルケゴール思想における罪の問題について | 行武 宏明 (東洋大) |
| 2. 11:40-12:00 | キルケゴールにおけるハーマン理解 | 須藤 孝也 (一橋大) |
| 3. 12:05-12:25 | キルケゴール思想における知恵と知識について | 中里 巧 (東洋大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 13:30-13:50 | スピノザとメンデルスゾーン | 後藤 正英 (佐賀大) |
| 2. 13:55-14:15 | 感官のアナロジー—ノヴァーリスにおける無限なものとの関連— | 田口 博子 (工学院大) |
| 3. 14:20-14:40 | ニーチェにおける創造の問題 | 山本 恵子 (早大) |
| 4. 14:45-15:05 | 忘却について—後期リクール哲学の地平— | 川口 茂雄 (東大) |
| 5. 15:10-15:30 | シュライアマハー哲学研究の現状と課題 | 伊藤 慶郎 (京都府立大) |
| 6. 15:35-15:55 | シモーヌ・ヴェイユの宗教哲学 | 脇坂 真弥 (東京理科大) |
| 7. 16:00-16:20 | 後期フィヒテ哲学の宗教論再考 | 諸岡道比古 (弘前大) |
| 8. 16:25-16:45 | 本質(それ自体)と「名の彼方」について | 松田健三郎 (天理大) |

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | エジプトにおけるコプト・キリスト教復興 | 岩崎 真紀 (筑波大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 現代イスラーム社会における聖典グッズ—モノの種類と使用例— | 小杉麻李亜 (立命館大) |
| 3. 9:50-10:10 | マートゥリーディー派における「救済の確証」教義の形成 | 松山 洋平 (東京外国語大) |
| 4. 10:15-10:35 | 「対話」の今日的意味—イスラームにおける意図と意義— | 高尾賢一郎 (同志社大) |
| 5. 10:40-11:00 | ガザリーの修行理論と『威厳の書』 | 加藤 瑞絵 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 | ザラスシュトラの預言者化 | 青木 健 |
| 7. 11:30-11:50 | ベンガルのラロン・フォキルとイスラーム神秘思想 | 外川 昌彦 (広島大) |
| 8. 11:55-12:15 | 救済と解脱—スーフィーとバクタの出会い— | 榊 和良 (北海道武蔵女子短大) |
| 9. 12:20-12:40 | アレヴィー諸集団の「アリー」像—スンニーとシーアの周辺で— | 佐島 隆 (大阪国際大) |

15日(月・祝)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------|-------------------|
| 1. 11:15-11:35 | 日本における「韓流」と韓国キリスト教の諸相 | 李 賢京 (北大) |
| 2. 11:40-12:00 | カトリック内観瞑想の霊性—藤原直達—の思想— | 寺尾 寿芳 (南山宗教文化研究所) |
| 3. 12:05-12:25 | 日中イエズス会士における仏教理解に関する—考察 | 安次嶺 勲 (琉球大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------|---------------------|
| 1. 13:30-13:50 | エディット・シュタインの手紙をめぐる論争 | 木鎌耕一郎 (八戸大) |
| 2. 13:55-14:15 | キリスト教解禁とキリシタンの改宗に対する—考察 | 内藤 幹生 (大正大) |
| 3. 14:20-14:40 | 天皇観と非戦論の相関関係—矢内原忠雄を中心に— | 菊川美代子 (同志社大) |
| 4. 14:45-15:05 | 内村鑑三のキリスト教思想における祈りの問題 | 岩野 祐介 (関西学院大) |
| 5. 15:10-15:30 | 内村鑑三におけるキリスト教的「愛」の表現 | ミッシェル・ラフェイ (北海道教育大) |
| 6. 15:35-15:55 | 滝沢克己におけるキリスト教の土着化理解 | 金 珍熙 (同志社大) |
| 7. 16:00-16:20 | 氷上英廣とキリスト教 | 村松 晋 (聖学院大) |

第5部会

第一エリアE棟1階 **1E101教室**

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|----------------------------|-------------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 僧伽提婆訳『阿毘曇心論』業品における三障について | 智谷 公和 (相愛大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 迦才『浄土論』における衆生論 | 工藤 量導 (大正大) |
| 3. 9:50-10:10 | 中国往生伝にみる行業 | 田中 夕子 |
| 4. 10:15-10:35 | WimaTaktu 王と閻膏珍 | チャロオンシーセット・サマーワディ (立正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 大正蔵の校勘に関して—仏説大安般守意経を例として— | 洪 鴻榮 (法鼓仏教研修学院) |
| 6. 11:05-11:25 | 智顛の『維摩経』解釈よりみる通相三観説の成立について | 山口 弘江 |
| 7. 11:30-11:50 | 吉蔵の「二諦」の理解について | 藤野 泰二 (立正大) |
| 8. 11:55-12:15 | 善導教学における「就行立信釈」の位置 | 那須 一雄 |
| 9. 12:20-12:40 | 仁岳の『雪謗書』について | 金 希泰 (立正大) |

15日(月・祝)

【午前】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|---------------|
| 1. 11:15-11:35 | Dol po pa が言及する肉食・飲酒を禁止する経典 | 望月 海慧 (身延山大) |
| 2. 11:40-12:00 | 仏教研究におけるデジタル資料の共有と利用 | 永崎 研宣 (山口県立大) |
| 3. 12:05-12:25 | チベットの屍鬼の説話 | 梶濱 亮俊 (摂南大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------------|
| 1. 13:30-13:50 | 四千頌般若経の行方 | 庄司 史生 (立正大) |
| 2. 13:55-14:15 | 毘超の空思想について | 野田 悟史 (立正大) |
| 3. 14:20-14:40 | 観想と三昧の空間構造 | 神居 文彰 (佛教大) |
| 4. 14:45-15:05 | 『順正理論』における無表をめぐる論争—経量部の無表仮有説— | 那須 円照 (龍大) |
| 5. 15:10-15:30 | ヨーガ思想における解脱について | 岡本さゆり (東洋大) |
| 6. 15:35-15:55 | 初期不二一元論学派の付託観 | 佐竹 正行 (東洋大) |
| 7. 16:00-16:20 | 『般若心経』テキストの諸問題 | 木村 俊彦 (四天王寺大) |
| 8. 16:25-16:45 | 『法華経』における「終末論的実存の弁証法」とその神話論的根拠 | 津田 眞一 (国際仏教学大学院大) |

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------|--------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 幕末期真宗僧超然の排耶論 | 岩田 真美 (龍大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 浄土真宗における行事と宗派の自己表象 | エリザベッタ・ポルク (龍大) |
| 3. 9:50-10:10 | 元照の浄土教帰入 | 吉水 岳彦 (大正大) |
| 4. 10:15-10:35 | 法然における懺悔の一考察 | 中尾 連三 (南山大) |
| 5. 10:40-11:00 | 真宗における「二河譬」の宗教経験的意義 | 山本 浩信 (教学伝道研究センター) |
| 6. 11:05-11:25 | 真宗における内観主義の如来概念—曾我量深の場合— | 陳 敏齡 (輔仁大) |
| 7. 11:30-11:50 | 「坂東曲」伝説の一考察 | 御手洗隆明 (真宗大谷派教学研究) |
| 8. 11:55-12:15 | 浄土思想と現代 | 桑原 恒久 (大正大) |
| 9. 12:20-12:40 | 親鸞における往生浄土の意味 | 加藤 智見 (東京工芸大) |

15日(月・祝)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| 1. 11:15-11:35 | 時代性に見る親鸞の念仏観 | 貫名 讓 (大阪大谷大短大部) |
| 2. 11:40-12:00 | 共生浄土について | 神谷 正義 (東海学園大) |
| 3. 12:05-12:25 | 真宗における信心と救済 | 林 智康 (龍大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|--------------|
| 1. 13:30-13:50 | 日蓮聖人における『地引御書』をめぐって | 奥野 本勇 (立正大) |
| 2. 13:55-14:15 | 『観心本尊抄』の一研究—流通分を中心として— | 山崎美由紀 (立正大) |
| 3. 14:20-14:40 | 天璋院篤姫と法華信仰—筑波山本證寺の沿革をめぐって— | 長倉 信祐 (大正大) |
| 4. 14:45-15:05 | 深見要言の御書開版をめぐって | 木村 中一 (立正大) |
| 5. 15:10-15:30 | 日蓮的法華信仰形成の社会的基礎 | 笠井 正弘 |
| 6. 15:35-15:55 | 身体の『法華経』化、『法華経』の身体化—持経者と日蓮— | 間宮 啓壬 (身延山大) |
| 7. 16:00-16:20 | 『立正安国論』の精神を現代社会に発信するための一試論 | 関戸 堯海 (立正大) |
| 8. 16:25-16:45 | 日蓮の宗教における動態と静態 | 渡邊 寶陽 (立正大) |

第7部会

第一エリアE棟3階 1E302教室

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|----------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 良忠における至誠心釈について | 沼倉 雄人 (大正大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 密教の数理解析 | 河合 裕子 (同志社大) |
| 3. 9:50-10:10 | 聖徳太子信仰における太子の移り香 | 吉村 晶子 (学習院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 本願寺明如の研究 | 宇治 和貴 (龍大) |
| 5. 10:40-11:00 | 時衆教団にみる臨終儀式 | 長澤 昌幸 (京都西山短大) |
| 6. 11:05-11:25 | 戒壇巡り儀礼について—信州善光寺の場合— | 小林 順彦 (大正大) |
| 7. 11:30-11:50 | 日本三論宗に於ける朝鮮仏教の影響について | 福士 慈稔 (身延山大) |
| 8. 11:55-12:15 | 鈴木正三にみる念仏観について | 新保 哲 (文化女子大) |
| 9. 12:20-12:40 | 岡山藩庄屋文書に見る在地寺院の様相 | 坂輪 宣政 (立正大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|------------------|---------------------|
| パネル | 仏教と心理学の接点とその意義 | 代表者：林 智康, 5名, 120分 |
| 14:00-16:00 | 浄土教における対話表現の意義 | 大田 利生 (龍大) |
| | 禅と心理学の接点 | 李 光濬 (龍大) |
| | 仏教と心理学の接点—聴聞と傾聴— | 友久 久雄 (龍大) |
| | 真宗と人間性心理学の接点 | 藤 能成 (九州龍谷短大) |
| | | コメンテータ・司会：林 智康 (龍大) |

15日(月・祝)

【午前】

- | | | |
|------------|------------------------------|-----------------------|
| パネル | 平安～鎌倉期における宗教心の転換—法華・太子・観音信仰— | 代表者：織田 顕祐, 4名, 100分 |
| 9:00-10:40 | 南岳慧思と『法華経』—慧思後身説の背景— | 采肇 晃 (大谷大) |
| | 太子信仰としての慧思後身説の成立 | 宮崎 健司 (大谷大) |
| | 『法華経』受容としての観音信仰とその形態 | 東館 紹見 (大谷大) |
| | | コメンテータ・司会：織田 顕祐 (大谷大) |

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 11:15-11:35 | 中世鎌倉長谷寺一帯の死者供養—光明真言会と写経骨を中心に— | 立花 弥生 (東方研究会) |
| 2. 11:40-12:00 | 中世武士と祖師の生死観 | 大山 眞一 (日大) |
| 3. 12:05-12:25 | 日本中世律宗の展開—伊勢弘正寺・円明寺を中心に— | 松尾 剛次 (山形大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|---------------------------|---------------------|
| 1. 13:30-13:50 | 「平常心是道」再考—『伝光録』真歇清了禅師章より— | 宮地 清彦 (曹洞宗総合研究センター) |
| 2. 13:55-14:15 | 中世後期曹洞宗の地藏信仰 | 清水 邦彦 (金沢大) |
| 3. 14:20-14:40 | 『医心方』所引の「僧深方」について | 多田 伊織 (皇學館大) |
| 4. 14:45-15:05 | 『法苑珠林』の六道篇について | 清水 浩子 (大正大) |
| 5. 15:10-15:30 | 最近の道元研究について | 何 燕生 (郡山女子大) |
| 6. 15:35-15:55 | 道元の道得とヨハネによる福音書序言の Logos | 土田 友章 (早大) |

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------------------|----------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 近世日本の鬼神論とその周辺 | 井関 大介 (東大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 戦国大名願文の検討—武田信玄を中心に— | 相澤 秀生 (駒大) |
| 3. 9:50-10:10 | 日本古代・中世期の風水術における四神相応について | 鈴木 一馨 (東方研究会) |
| 4. 10:15-10:35 | 謡曲における神—脇能にみるワキとシテ (神) の関係について— | 今泉 隆裕 (桐蔭横浜大) |
| 5. 10:40-11:00 | 鎌倉武士と夢—吾妻鏡を中心に— | 河東 仁 (立教大) |
| 6. 11:05-11:25 | 藤樹の論語郷党篇研究について | 鈴木 保實 (愛知県立熱田高) |
| 7. 11:30-11:50 | 能における草木霊の擬人化について | 永原 順子 (国際日本文化研究センター) |
| 8. 11:55-12:15 | 平安貴族の宗教生活の一側面—『源語』北山僧都の説法を中心に— | 龍口 恭子 (東方学院) |
| 9. 12:20-12:40 | 宗教研究は日本文化論にたいして何を提供できるか | 中村 生雄 (学習院大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|---------------------------------------|-------------------------|
| パネル | 現代社会における宗教の社会貢献—海外における宗教の社会参加— | 代表者：稲場 圭信, 5名, 120分 |
| 14:00-16:00 | タイの華人系慈善団体の社会貢献活動 | 玉置 充子 (拓殖大) |
| | インドのカトリック教会の社会貢献活動 | 岡光 信子 (東北大) |
| | 仏教復興と社会開発—カンボジアにおける「社会参加仏教」— | ランジャン・ムコパディヤーヤ (名古屋市立大) |
| | アメリカの宗教に基づく社会福祉サービス | 稲場 圭信 (神戸大) |
| | | コメンテータ：田島 忠篤 (天使大) |
| | | 司会：稲場 圭信 (神戸大) |

15日(月・祝)

【午前】

- | | | |
|------------|--------------------------------------|----------------------|
| パネル | 宗教者は社会にどのように向き合ってきたか—近代日本の事例— | 代表者：葛西 賢太, 6名, 120分 |
| 9:00-11:00 | 宗教的社会事業の日本化—山室軍平と救世軍の思想— | 葛西 賢太 (宗教情報センター) |
| | 賀川豊彦の遺産と現代 | 濱田 陽 (帝京大) |
| | 渡辺海旭の社会運動と現代 | 菊池 結 (大正大) |
| | 岩倉政治と反宗教運動 | 森 葉月 (国際基督教大) |
| | 中島重の社会的基督教と妹尾義郎の社会的仏教 | 大谷 栄一 (南山宗教文化研究所) |
| | | コメンテータ：宮城洋一郎 (皇學館大) |
| | | 司会：大谷 栄一 (南山宗教文化研究所) |

- | | | |
|----------------|-----------|----------------|
| 1. 11:15-11:35 | 南方熊楠の五蘊 | 環 栄賢 |
| 2. 11:40-12:00 | 斎藤茂吉の病気観 | 小泉 博明 (文京学院大) |
| 3. 12:05-12:25 | 横川顕正と神秘思想 | 和田 真二 (帝塚山学院大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 13:30-13:50 | 近代日本の宗教哲学思想「場所的自覚の立場」と共生 | 野嶋スマ子 (エンパワメント・プランニング協会) |
| 2. 13:55-14:15 | 意識の野—西田幾多郎における「場所」— | 斎藤 明典 (阪大) |
| 3. 14:20-14:40 | 森有正の「経験」思想における人称論の地平 | 釘宮 明美 (白百合女子大) |
| 4. 14:45-15:05 | 多田鼎の思想遍歴—清沢満之との関係を通して— | 春近 敬 (親鸞仏教センター) |
| 5. 15:10-15:30 | 西田の場所的論理と禅 | 岡 廣二 (十文字高) |
| 6. 15:35-15:55 | 鈴木大拙と西の思想—不二思想にむけて— | 嶋本 浩子 (宝塚造形芸術大) |
| 7. 16:00-16:20 | 他の内に自己を見る | 小坂 国継 (日大) |

第9部会

第一エリアE棟4階 **1E401教室**

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------|
| 1. 9:00- 9:20 | ピーター・シンガーの提示する「倫理的生き方」に潜む救済の思想 | 山本栄美子 (東大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 19世紀における老農思想の死生観—石川理紀之助を事例に— | 相澤 出 (爽秋会) |
| 3. 9:50-10:10 | 現代ネパールにおけるホスピス | 杉木 恒彦 (早大) |
| 4. 10:15-10:35 | 東アジアにおける幹細胞研究のバイオポリティックスと生命倫理 | 淵上 恭子 |
| 5. 10:40-11:00 | 医療宗教学の可能性—病院外の臨床で宗教を再考する— | 山口 勇人 |
| 6. 11:05-11:25 | 死生観教育と生命倫理 | 冲永 隆子 (帝京大) |
| 7. 11:30-11:50 | 現代医療における宗教・スピリチュアリティ | 半田 栄一 |
| 8. 11:55-12:15 | 仏教における生命論 | 金 永晃 (大正大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|--------------------------------|---------------------|
| パネル | 「宗教と人間」の統一的把握の地平を目指して—宗教と霊性の間— | 代表者：棚次 正和, 6名, 120分 |
| 14:00-16:00 | 神と人との間—集合論的キリスト論— | 落合 仁司 (同志社大) |
| | 比較宗教学と近代スピリチュアリズムその他 | 津城 寛文 (筑波大) |
| | 「絶対と相対の関係」としての人間と超越の問題 | 棚次 正和 (京都府立医科大) |
| | スピリチュアリティと今日のヒューマンサービス | 中川 吉晴 (立命館大) |
| | 自己・社会・世界の「一」性の問題 | 花岡 永子 (奈良産業大) |
| | | コメンテータ：鶴岡 賀雄 (東大) |
| | | 司会：棚次 正和 (京都府立医科大) |

15日(月・祝)

【午前】

- | | | |
|------------|--------------------------------|--------------------------|
| パネル | 宗教学的知の臨床性を問う—「臨床の知」としての宗教学の実践— | 代表者：笹尾 典代, 5名, 120分 |
| 9:00-11:00 | 宗教的臨床の知と宗教学の臨床性 | 平良 直 (八洲学園大) |
| | 「宗教と暴力」の問題について宗教学は何を語れるか | 村上 辰雄 (上智大) |
| | 臨床宗教学の試みとしての〈歌の人間学〉 | 佐藤 壮広 (立教大) |
| | サステナビリティ問題に宗教学は如何に応えることができるのか | 木村 武史 (筑波大) |
| | | コメンテータ・司会：笹尾 典代 (恵泉女学園大) |

- | | | |
|----------------|------------------------------|-------------|
| 1. 11:15-11:35 | 直接経験と環境哲学 | 冲永 宜司 (帝京大) |
| 2. 11:40-12:00 | アジア的宗教とエコフィロソフィーの可能性 | 山下 博司 (東北大) |
| 3. 12:05-12:25 | 寛容思想の比較宗教学的考察—西洋と東洋の相違をめぐって— | 保坂 俊司 (麗澤大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|------------------------------|---------------|
| 1. 13:30-13:50 | 障害者と信仰の問題—障害の進行に関する言説を中心として— | 頼尊 恒信 (熊本学園大) |
| 2. 13:55-14:15 | グローバル化における日本仏教—真宗のケーススタディー— | ウゴ・デッシ (大谷大) |
| 3. 14:20-14:40 | 「いのち共育」における宗教の必要性 | 西岡 秀爾 (大阪大谷大) |
| 4. 14:45-15:05 | 説話に見る生命倫理 | 米井 輝圭 (文化庁) |
| 5. 15:10-15:30 | 現代社会における倫理と宗教の関係を巡って | 飯田 篤司 (鎌倉女子大) |
| 6. 15:35-15:55 | 人格の宗教的基礎と自己決定 | 村上 喜良 (立正大) |

14 日 (日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------|--------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 神宮式年遷宮中絶期の一考察 | 堀川 秀徳 (皇學館大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 「祓詞」の尊崇からみた生命主義的救済観 | 鈴木 一彦 (國學院大) |
| 3. 9:50-10:10 | 井上毅の国体教育主義における近代国学の影響 | 小川 有閑 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | 鎮魂祭に関する一考察 | 山口 剛史 (皇學館大) |
| 5. 10:40-11:00 | 近代日本の招魂祭と公葬—神式と仏式との相克— | 藤田 大誠 (國學院大) |
| 6. 11:05-11:25 | 国民国家論と国家神道論—架橋の試み— | 田中 悟 (神戸大) |
| 7. 11:30-11:50 | 神葬祭運動と情報収集—三河国平田国学者における— | 遠藤 潤 (國學院大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|--------------------------------|---------------------------|
| パネル | 現代日本における地域活動と宗教文化の活用—神道と福祉の接点— | 代表者：藤本 頼生, 6名, 120分 |
| 14:00-16:00 | 地域の子育て支援と神社の資源—プレイセンター・ピカソの事例— | 藤本 頼生 (神社本庁教学研究) |
| | 地域づくりへの参加機会創出と神社祭礼—人吉市の事例から— | 黒崎 浩行 (國學院大) |
| | 観光の地域づくりと宗教文化資源—神奈川県江の島の事例から— | 森 悟朗 (國學院大) |
| | 聖地へのアクセシビリティ—宗教観光地としての神社を事例に— | 板井 正斉 (皇學館大) |
| | | コメンテータ：中尾伊早子 (NPO ちんじゅの森) |
| | | 司会：櫻井 治男 (皇學館大) |

15 日 (月・祝)

【午前】

- | | | |
|------------|------------------------------|--------------------|
| パネル | 現代日本の戦死者慰霊—慰霊の現場から見えるもの— | 代表者：中山 郁, 6名, 120分 |
| 9:00-11:00 | 「隔たり」と「つなぎ」—戦地慰霊の時-空間的構成— | 西村 明 (鹿児島大) |
| | 慰霊巡拝にみる霊魂観念—東部ニューギニア地域の事例から— | 中山 郁 (國學院大) |
| | 沖縄における遺骨収集の展開—公文書資料から— | 粟津 賢太 (創価大) |
| | 遺骨との出会いを問わず—沖縄遺骨収集奉仕と金光教の信心— | 土居 浩 (ものつくり大) |
| | | コメンテータ：村上 興匡 (大正大) |
| | | 司会：藤田 大誠 (國學院大) |

- | | | |
|----------------|--------------------------------|------------------|
| 1. 11:15-11:35 | 竹田聴洲の仏教論 | 碧海 寿広 (慶大) |
| 2. 11:40-12:00 | 遺物となりゆく日本仏教—辻善之助における近代国家と僧侶批判— | オリオン・クラウタウ (東北大) |
| 3. 12:05-12:25 | 久米邦武の「無宗教」が意味するもの—米欧回覧実記を中心に— | 西田みどり (大正大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|------------------|
| 1. 13:30-13:50 | 近代奄美社会と仏教—移入と寺院設立— | 財部めぐみ (鹿児島大) |
| 2. 13:55-14:15 | 長松日扇における教化活動の研究—嶋田氏との交流を中心として— | 武田 悟一 (立正大) |
| 3. 14:20-14:40 | 「近代」をめぐる葛藤—新仏教と精神主義— | 江島 尚俊 (大正大) |
| 4. 14:45-15:05 | 海外開教と大谷光瑞 | 高山 秀嗣 (二松学舎大) |
| 5. 15:10-15:30 | 財団法人大日本仏教会の南方対策 | 大澤 広嗣 (大正大) |
| 6. 15:35-15:55 | 近代中国仏教における「復興」と「墮落」の思想的背景 | エリック・シッケタンツ (東大) |
| 7. 16:00-16:20 | 第一次宗教法案否決後に於ける内務省の宗教政策 | 飯塚 大造 (皇學館大) |
| 8. 16:25-16:45 | 近代日本仏教史における法華—日蓮系運動の意義 | 島蘭 進 (東大) |

第11部会

第一エリアE棟1階 1E102教室

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | カルキ神話における終末論 | 渡邊たまき (筑波大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 現代における山岳修行者の心的変化と「気づき」 | 原谷 桜 (聖心女子大) |
| 3. 9:50-10:10 | 新出富士講史料と「みろくの御世」の提唱者 | 大谷 正幸 |
| 4. 10:15-10:35 | 戦時下における修験道の表象 | 山口 正博 (香蘭女子短大) |
| 5. 10:40-11:00 | 三重県内の山の神信仰について—鈴鹿市肥田町の事例を中心に— | 平山 眞 (東洋大) |
| 6. 11:05-11:25 | 富士山信仰と法華信仰 | 望月 真澄 (身延山大) |
| 7. 11:30-11:50 | 「善宝寺龍王講だより」にみる信心 | 阿部 友紀 (東北大) |
| 8. 11:55-12:15 | 宗教民俗と権力関係—臼杵祇園祭を事例として— | 白川 琢磨 (福岡大) |
| 9. 12:20-12:40 | 櫻井徳太郎のシャーマニズム研究について | 佐藤 憲昭 (駒大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|---|---|
| パネル | 日本新宗教の生命主義的救済観と教導システム—災因論と救済論— | 代表者：小島 伸之, 6名, 120分 |
| 14:00-16:00 | 念法真教における他力と自力、個人救済と世界救済
生長の家の災因論と救済論
創価学会における人生問題に関する教説の原型とその変容
善隣教における人生問題の解釈と解決の論理と実践
世界救世教における人生問題の解釈と解決に関する教団戦略 | 小島 伸之 (上越教育大)
寺田 喜朗 (鈴鹿短大)
大西 克明 (東洋大)
塚田 穂高 (東大)
隈元 正樹 (東洋大) |
| | | コメンテータ：武田 道生 (淑徳大) |
| | | 司会：小島 伸之 (上越教育大) |

15日(月・祝)

【午前】

- | | | |
|------------|---|--|
| パネル | 宮田登の民俗学を語る—学問史のひとつの試みとして— | 代表者：林 淳, 5名, 120分 |
| 9:00-11:00 | 宮田登における発想と思考のスタイル
信仰史研究の基底
歴史民俗学存疑
非凡な隣人 | 真野 俊和
小池 淳一 (国立歴史民俗博物館)
菊地 暁 (京大)
関 一敏 (九大) |
| | | コメンテータ・司会：林 淳 (愛知学院大) |

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------------|
| 1. 11:15-11:35 | 身体経験と民俗宗教 | 長澤 壮平 (南山宗教文化研究所) |
| 2. 11:40-12:00 | 「無宗教」の人々—奄美キリスト教の受容と弾圧をめぐる言葉— | 及川 高 (筑波大) |
| 3. 12:05-12:25 | 新たな「信仰」との共生—沖縄の県系移民と韓国系基督教会信者— | 吉野 航一 (北大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 1. 13:30-13:50 | 現代モンゴルの福音派教会における祈りのかたち | 滝澤 克彦 (東北大) |
| 2. 13:55-14:15 | 現代における厄年意識の高まりと厄年観の変容 | 田口 祐子 (國學院大) |
| 3. 14:20-14:40 | 民俗宗教の変容—沖縄の間民間巫者「ユタ」を中心に— | 新里 喜宣 (東大) |
| 4. 14:45-15:05 | 神女の乗馬と馬の鞍—沖縄の祭祀事例より— | 坂本直乙子 (國學院大) |
| 5. 15:10-15:30 | 沖縄の御嶽の一考察 | ヒュインドリン・ファン・ダー・フォルスト (皇學館大) |
| 6. 15:35-15:55 | いわゆる「死霊結婚」概念の再考—東北地方の事例を手懸りに— | 小田島建己 (東北大) |
| 7. 16:00-16:20 | 死者をカミと祀る習俗の展開 | 鈴木 岩弓 (東北大) |

14日(日)

【午前】

1. 9:00- 9:20	類似宗教と疑似宗教の定義をめぐって	今井 信治 (筑波大)
2. 9:25- 9:45	バーガー宗教社会学再考	高橋 典史 (宗教情報リサーチセンター)
3. 9:50-10:10	宗教を活用した企業経営者のマネジメントの諸類型	赤田 達也 (早大)
4. 10:15-10:35	『ガンダム SEED DESTINY』にみられる日本人の終末観	十津 守宏 (鈴鹿短大)
5. 10:40-11:00	宗教指導者の「老年期」	川又 俊則 (鈴鹿短大)
6. 11:05-11:25	デカセギの宗教活動と社会化	山田 政信 (天理大)
7. 11:30-11:50	企業経営と宗教的信念—稲盛和夫の「哲学」—	川上 恒雄 (京大)
8. 11:55-12:15	スピリチュアル・ビジネス—神世界ヒーリングサロンの事例—	櫻井 義秀 (北大)

【午後】

パネル 14:00-15:40	現代東アジアにおける「死者供養仏教」の活性化	代表者：池上 良正, 4名, 100分
	東アジアの救済システムとしての「死者供養」	池上 良正 (駒大)
	現代韓国仏教の死者供養	川上 新二 (駒大)
	沖縄の死者供養と仏教	鷲見 定信 (大正大)
		コメンテータ：中村 生雄 (学習院大)
		司会：池上 良正 (駒大)

15日(月・祝)

【午前】

パネル 9:00-11:00	現代スピリチュアリティ文化の解説	代表者：弓山 達也, 5名, 120分
	現代スピリチュアリティ文化の明暗	弓山 達也 (大正大)
	スピリチュアリティの存在論的構造	櫻尾 直樹 (慶大)
	宗教対話実験と意識調査からみた日米スピリチュアリティの実情	渡辺 光一 (関東学院大)
	問いとしてのスピリチュアリティ	安藤 泰至 (鳥取大)
		コメンテータ：島藺 進 (東大)
		司会：弓山 達也 (大正大)

1. 11:15-11:35	戦争の痕跡と信仰—天理教のひのきしんをめぐって—	永岡 崇 (阪大)
2. 11:40-12:00	総力戦体制下における天理教の教義形成	幡鎌 一弘 (天理大)

【午後】

1. 13:30-13:50	原典としての「みかぐらうた」	堀内みどり (天理大)
2. 13:55-14:15	新宗教における病の意味変容—世界救世教を事例として—	武井 順介 (立正大)
3. 14:20-14:40	宗教—メディア史考—大本教とラジオ・テレビ・インターネット—	榎本 香織 (東大)
4. 14:45-15:05	統一教会の分派—天宙統一真の王国連合について—	中西 尋子 (関西学院大)
5. 15:10-15:30	統一教 (統一教会) と「恨」	古田 富建 (島根大)
6. 15:35-15:55	現代の輪廻転生観—輪廻する〈私〉の物語—	堀江 宗正 (聖心女子大)
7. 16:00-16:20	ヴェーバーの“占有”理論とマツリノ共有感や集団類型	池田 昭

第13部会

第一エリアC棟4階 **1C403教室**

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 聖地の構築—メジゴリエを事例として— | デラコルダ・ティンカ (筑波大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 現代の聖地巡礼／ツーリズムにおける場所体験の複層性 | 岡本 亮輔 (筑波大) |
| 3. 9:50-10:10 | ヨーロッパの女神運動—イギリスとハンガリーの比較より— | 河西瑛里子 (京大) |
| 4. 10:15-10:35 | ファン・ディエゴ列聖後の教会の動きと人々の反応 | 中村 千萩 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | 宗教的空間構造の分析—神社の聖と俗— | 松村志真秀 (國學院大) |
| 6. 11:05-11:25 | 四国遍路における地域の活性化 | 河野 昌広 (関東学院大) |
| 7. 11:30-11:50 | 「ひぐらしのなく頃に」聖地巡礼 | デール・アンドリュース (金沢大) |
| 8. 11:55-12:15 | ネパールの仏教寺院ブンガ・バハの宗教的空間にみられる表象 | 佐久間留理子 (東方研究会) |
| 9. 12:20-12:40 | 分析概念としての「宗教的景観」をめぐって | 松岡 秀明 (淑徳大) |

【午後】

パネル	アジアの宗教と自然観	代表者：西尾 秀生, 6名, 120分
14:00-16:00	原始仏教と上座仏教の自然観	平木 光二 (東方学院)
	律文献に見られる自然観	龍口 明生 (龍大)
	中国仏教の自然観	宮井 里佳 (埼玉工業大)
	ジャイナ教の自然観	杉岡 信行 (東方研究会)
	インド近代思想の自然観	北川 清仁 (近大)
		コメンテータ・司会：西尾 秀生 (近大)

15日(月・祝)

【午前】

パネル	仏教者の信仰主体と社会的具現—タイ・日本における社会貢献—	代表者：泉 経武, 5名, 120分
9:00-11:00	開発僧を起点としたネットワークタイ・スカトー寺の事例から—	浦崎 雅代 (中央学術研究所)
	仏教僧侶と開発—タイ東北地方の開発僧の事例から—	泉 経武 (東京成徳大)
	現代日本仏教における宗教主体の社会貢献について	石上 和敬 (武蔵野大)
	ビハーラ運動／活動としての社会貢献	谷山 洋三 (四天王寺大)
		コメンテータ：櫻井 義秀 (北大)
		司会：泉 経武 (東京成徳大)

- | | | |
|----------------|---------------------------|----------------|
| 1. 11:15-11:35 | 中国農村祭祀儀礼に呼び出される神々—猖神について— | 廣田 律子 (神奈川大) |
| 2. 11:40-12:00 | 中国における辟邪の神獣「白沢」の伝承について | 坂出 祥伸 (森ノ宮医療大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|----------------------------------|------------------|
| 1. 13:30-13:50 | メソポタミア神像の誕生と死と再生をめぐる儀礼 | 笠谷 美穂 (東洋英和女学院大) |
| 2. 13:55-14:15 | 蘭領インドネシアをめぐる学知の形成 | 相澤 里沙 (東北大) |
| 3. 14:20-14:40 | サティール研究の変遷 | 田中 鉄也 (関西大) |
| 4. 14:45-15:05 | 成女式としての共同体儀礼—インドネシア・バリ島の事例— | 岩部 俊美 (順天堂大) |
| 5. 15:10-15:30 | 「宣教師伝」の成立と現地社会—スマトラ宣教の事例より— | 木村 敏明 (東北大) |
| 6. 15:35-15:55 | Eduard Stucken (1865-1936) の神話研究 | 山田 仁史 (東北大) |
| 7. 16:00-16:20 | インド・ヨーロッパ語族宗教・神話研究の現状とこれからの展望 | 松村 一男 (和光大) |
| 8. 16:25-16:45 | メソポタミアの祈禱・呪術・治療 | 渡辺 和子 (東洋英和女学院大) |

14日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|----------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 宗教と非暴力 | 岡田 絵美 (東大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 児童文学の宗教性 | 大澤千恵子 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「信念」概念の再考—米国の保守福音派キリスト教徒を事例に— | 丹羽 充 (一橋大) |
| 4. 10:15-10:35 | 米国における「人間性の宗教」の展開 | 庄司 一平 (東北生活文化大) |
| 5. 10:40-11:00 | ロシアにおける政治と宗教 | 井上まどか (成城大) |
| 6. 11:05-11:25 | 軍隊における宗教と宗教性 | 石川 明人 (北大) |
| 7. 11:30-11:50 | 平和構築・紛争予防研究 (PCS) への宗教社会学的接近の可能性 | 丹羽 泉 (東京外国語大) |

【午後】

パネル	魂の根底をめぐる—エックハルト、タウラー、リュースブルク—	代表者: 田島 照久, 5名, 120分
14:00-16:00	エックハルトにおける〈ひらけ〉としての grunt の再考	阿部 善彦 (上智大)
	エックハルトにおける言葉と grunt	高木 保年 (早大)
	タウラーの grunt 概念について	田島 照久 (早大)
	リュースブルクにおける gront 概念について	菊地 智 (早大)
		コメンテータ: 香田 芳樹 (慶大)
		司会: 田島 照久 (早大)

15日(月・祝)

【午前】

パネル	『新佛教』の言説空間、その宗教史・文化史的意味	代表者: 吉永 進一, 4名, 100分
9:00-10:40	古河老川の仏教論	吉永 進一 (舞鶴工業高専)
	『新佛教』と「信仰」	星野 靖二 (國學院大)
	毛利清雅と『新佛教』	安藤 礼二 (多摩美術大)
		コメンテータ・司会: 岡田 正彦 (天理大)

- | | | |
|----------------|--------------------------|-------------|
| 1. 11:15-11:35 | 宇宙基本法に関する一考察 | 太田 俊明 |
| 2. 11:40-12:00 | 宇宙基地時代における人間の問題と宗教的思考の構想 | 平野 孝國 (新潟大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 1. 13:30-13:50 | 近年心理学理論における死と宗教 | イーリヤ・ムスリン (東大) |
| 2. 13:55-14:15 | 群衆心理学における「宗教的な感情」 | 斎藤 喬 (東北大) |
| 3. 14:20-14:40 | インドの公教育における宗教的要素—初等教育教科書の分析— | 澤田 彰宏 (大正大) |
| 4. 14:45-15:05 | 現代ドイツにおける宗教教科書の変遷と類型 | 石川 智子 (バイロイト大) |
| 5. 15:10-15:30 | 矢内原忠雄と教育 | 森上 優子 (お茶の水女子大) |
| 6. 15:35-15:55 | ミッション・スクールと訓令十二号問題—立教の対応を中心に— | 大江 満 (立教大) |
| 7. 16:00-16:20 | 北海道の宗教系学校における宗教教育の展開について | 田島 忠篤 (天使大) |

レジュメの作成と提出の注意

『宗教研究』への掲載は、大会最終日までに「レジュメの紙原稿と表紙」を提出された方に限ります。必ず、19頁の表紙・本文の順にホチキスでとめ、フロッピーディスク（FD）を提出される方は、FDを添えて、部会責任者にお渡し下さい。

締切 大会最終日（9月15日）各部会終了時 以後の提出、訂正は一切受け付けません。

枚数 パソコン原稿（縦書き）—— 1行40字×40行以内。 総文字数ではありません。超過している場合は掲載できません。以下の書式をお守り下さい。

【パソコン原稿の書式】

用紙：A4横置き 設定：縦書き 1行40字×40行

文字サイズ：一律10.5ポイント 邦文のフォント：MS明朝

・1頁目——発表題目、発表者名、欧文タイトル、発表者のローマ字表記 を入力

・2頁目——本文 を入力

手書きは、400字詰原稿用紙4枚以内（但し、当方でパソコンに入力し、40字×40行以内）

題目 プログラムの記載と同一

本文 縦書き。邦文中の数字は、漢数字にして下さい。『宗教研究』は縦組みです。常用漢字、現代仮名づかいを用いて下さい。図表等は掲載できません。手書きの場合、1マスに1字（欧文は1マスに2字）、欧文のイタリックは下線で指示して下さい。

欧文タイトル

英語——邦文題目に照らして、ネイティブスピーカーが手を加えることがあります。英語以外の言語——発表者が提出したタイトル通りに掲載します。

電子データの提出方法

紙原稿の他に、電子データ（表紙と本文の両方）もご提出下さい。この場合も、必ず大会最終日までに、所定の表紙を付して、紙の形でご提出下さい。メールによる電子データの送信のみでは、掲載不可です。

① 大会当日に、レジュメと一緒にFDを提出される場合

FDのラベルに、氏名と「OS名・ソフト名（例：Windows・ワード）」を明記して下さい。FDは校正刷りと一緒に返却します。

② Eメールで送信する場合

送信先：日本宗教学会事務局 ja-religion@mub.biglobe.ne.jp

9月19日（金）までに、Windowsのワード・一太郎は添付ファイルで、それ以外はメール本文に貼り付けて、お送り下さい。 受付開始：8月20日

メールの件名は、「レジュメ 発表者の御名前」として下さい。

例：レジュメ 鈴木花子

『宗教研究』編集委員会

レジュメの表紙 (すべての項目に記入して下さい)

発表題目 縦書き。題目の変更は認められません。100文字以内で記載して下さい。

発表者名 縦書き

欧文タイトル 活字体。イタリックは下線で指示して下さい。

発表者のローマ字表記 例：鈴木花子 → SUZUKI Hanako

電子データの種類について 以下に○をつけて下さい。

- 1 フロッピーディスク (会場で手渡し)
- 2 Eメール (送信済み / 9月19日までに送信)

※レジュメの表紙は、大会ホームページ (<http://syu-hi.logos.tsukuba.ac.jp/jars2008/>) からダウンロードできます。

※特殊文字は、プリントアウトしたものに、赤字を入れて下さい。

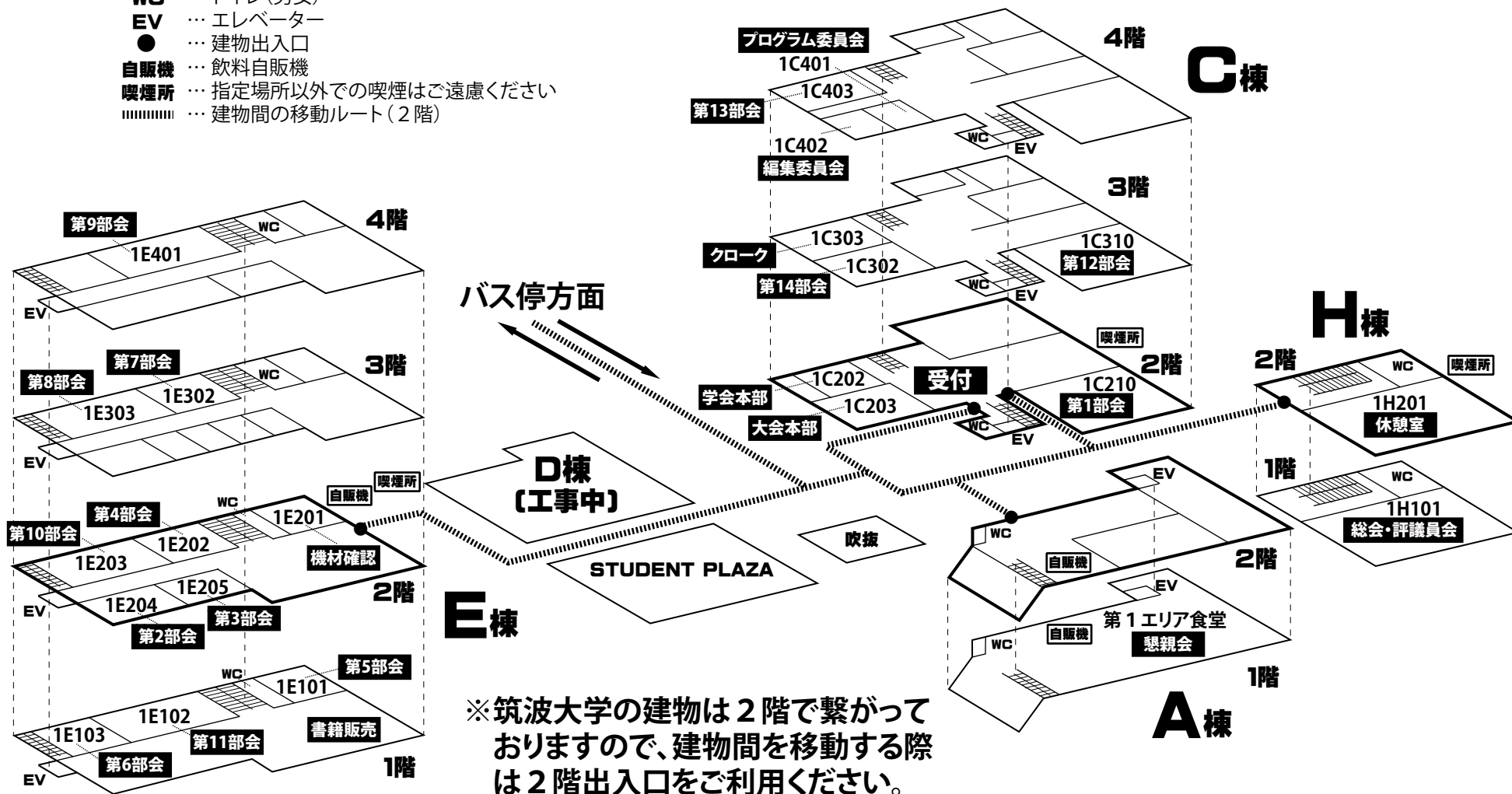
日本宗教学会 第67回学術大会

9月14日・15日(2日目・3日目)会場配置図 (筑波大学第一エリア)

【凡例】

- WC … トイレ(男女)
- EV … エレベーター
- … 建物出入口
- 自販機 … 飲料自販機
- 喫煙所 … 指定場所以外での喫煙はご遠慮ください
- ||||||| … 建物間の移動ルート(2階)

- 21 -



※筑波大学の建物は2階で繋がっておりますので、建物間を移動する際は2階出入口をご利用ください。

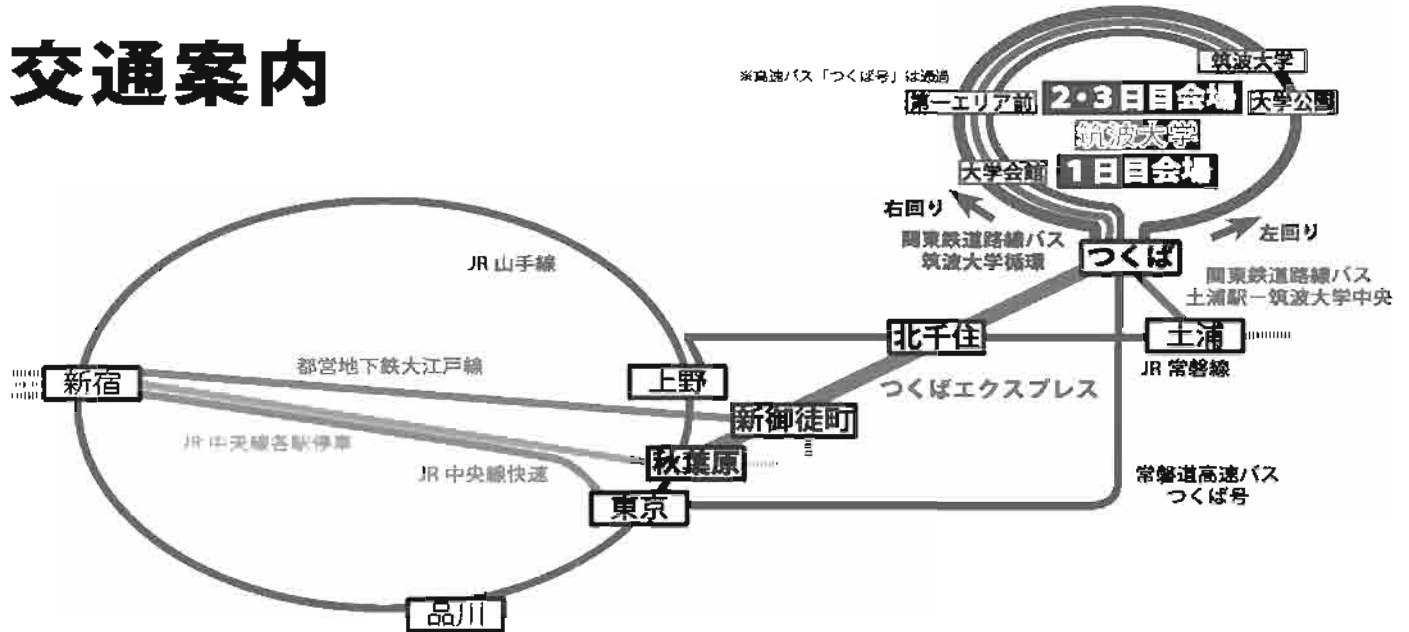
日本宗教学会 第67回学術大会 筑波大学構内図

【凡例】

- ||||||| … バス停からの順路
- … 会場の建物
- … それ以外の建物



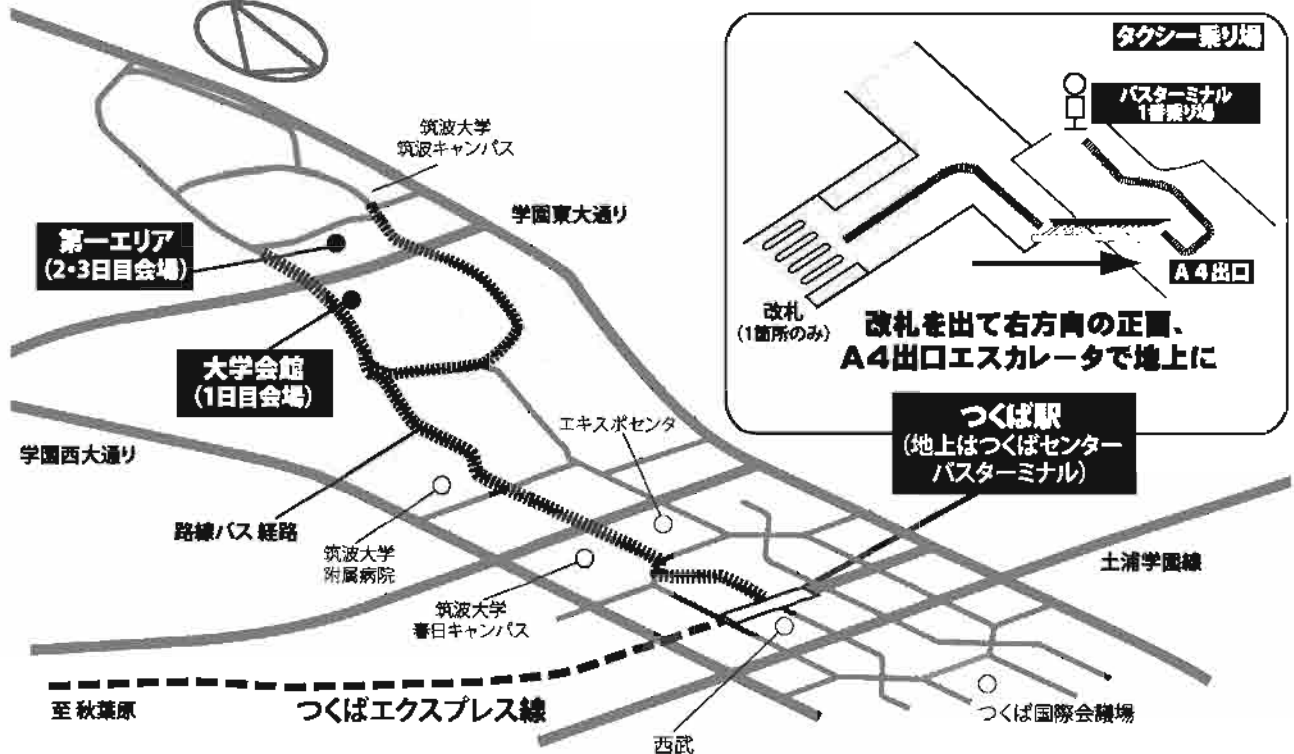
交通案内



交通機関	経路
(A) つくばエクスプレス(TX) + 関東鉄道路線バス	「秋葉原」駅からつくばエクスプレス(TX)線で終点「つくば」駅にて下車。 A4出口から地上バスターミナルの1番乗り場に出て、関東鉄道路線バスに乘換。 【1日目】「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行に乘車し、「大学会館」で下車。 【2・3日目】「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行に乘車した場合、「第一エリア前」下車。 C10系統「筑波大学循環(左回り)」に乘車した場合、「大学公園」で下車。
(B) 常磐道高速バス 「つくば号」	「東京駅八重洲南口バスターミナル」3番乗り場より、常磐道高速バス「つくば号」の「筑波大学」行に乘車。 【1日目】「大学会館」で下車。【2・3日目】終点「筑波大学」で下車。
(C) JR常磐線+ 関東鉄道路線バス	「上野」駅からJR常磐線快速電車で乗車し、「土浦」駅で下車。 西口バスターミナル2番乗り場関東鉄道路線バスに乘換。 【1日目】「筑波大学中央」行に乘車し「大学会館」で下車。【2・3日目】同じく「第一エリア前」で下車。

TXつくば駅からのご案内

※駅から会場までは約4kmあります。バスかタクシーでお越し下さい。



日本宗教学会第 67 回学術大会実行委員会

〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学 人文社会科学研究科 哲学・思想専攻内

電話 029-853-4133 (専攻事務室・大会当日はかかりません) FAX 029-853-4004

E-Mail jars2008@logos.tsukuba.ac.jp

<http://syu-hi.logos.tsukuba.ac.jp/jars2008/>

交通機関のご案内

つくばエクスプレス (TX コールセンタ 0570-000-298 9時～19時)

快速の場合、つくばまで秋葉原から45分(1150円)・新御徒町から43分(1100円)・北千住から35分(1000円)

【往路】秋葉原発

【復路】つくば発

7時台	快00 区12 快24 区35 区48	14時台	快11 区18 快41 区48
8時台	快00 区10 快30 区40 区50	15時台	快11 区18 快41 区48
9時台	快00 区10 快30 区45	16時台	快11 区18 快41 区52
10時台	快00 区15 快30 区45	17時台	快09 区13 区25 快44 区49
11時台	快00 区15 快30 区45	18時台	区02 快20 区25 区38 快57
12時台	快00 区15 快30 区45	19時台	区02 区13 快32 区37 快57
13時台	快00 区15 快30 区45	20時台	区01 快18 区25 快42 区49
14時台	快00 区15 快30 区45	21時台	快08 区16 区33 区46
15時台	快00 区15 快30 区45	22時台	快08 区15 区40
16時台	快00 区15 快30 区45	23時台	快05 普14 秋葉原行最終 普47 守谷行最終

- ※ 上記時刻表の凡例…「快」：快速電車、「区」：区間快速電車（快速より約7分かかります）
- ※ ほとんどの普通列車は途中の守谷止まりです。つくば行の「快速」か「区間快速」にご乗車下さい。
- ※ 秋葉原行最終電車は秋葉原0時11分着です。他路線への接続にはご注意ください。

路線バス (関東鉄道バス つくば中央営業所 029-836-1145 土浦営業所 029-822-5345)

1日目会場「大学会館」まで約20分、190円

2日目・3日目会場「第一エリア前」もしくは「大学公園」まで約20分、260円

【往路】つくば駅発

【復路】第一エリア前・大学会館発

大学公園発

7時台	L00 R20 23 L40 43 58	14時台	11 31 37 51	14時台	15 29 55
8時台	この間約6分ごとに発車	15時台	11 17 31 51 57	15時台	35
9時台	この間約6分ごとに発車	16時台	11 31 37 51	16時台	15 55
10時台	R00 03 L20 23 R40 43	17時台	11 17 46 57	17時台	29 35
11時台	L00 03 R20 23 L40 43	18時台	21 37 51	18時台	15 55 59
12時台	R00 03 L20 23 R40 43	19時台	17 41 57	19時台	35
13時台	L00 03 R20 23 L40 43	20時台	21 37	20時台	15 55
14時台	R00 03 L20 23 R40 43	21時台	01 17 57	21時台	35
15時台	L00 03 R20 23 L40 43	22時台	01	22時台	15 55

- ※ 上記時刻表の凡例…【往路】無印：「筑波大学中央」行、「R」：「筑波大学循環（右回り）」、「L」：「筑波大学循環（左回り）」【復路】「筑波大学循環」もしくは「土浦駅」行（つくば駅経由）
- ※ バスターミナルには違う行き先のバスも来ます。「筑波大学循環（右回り・左回り）」か「筑波大学中央」行にご乗車下さい。

タクシー

TXつくば駅～会場 約15分、約1500円

常磐線土浦駅～会場 約40分、約4000円

【主なタクシー会社と電話番号】

大曽根タクシー 029-864-0301

松見タクシー 029-851-1432

関鉄土浦タクシー 029-860-3500

土浦タクシー 029-851-5566

- ※ 上に示した料金はあくまで一例です。
- ※ 駅から乗車する場合、1日目は「筑波大学大学会館」、2・3日目は「筑波大学中央図書館の橋の下」と行先をドライバーに伝えて下さい。
- ※ 大学から乗車する場合、タクシー会社によっては迎車両金がかかることもあります。

レジュメについてのご注意 (個人発表・パネル発表とも)

個人発表・パネル発表をされる会員の皆様におかれましては、『宗教研究』掲載用レジュメを提出する際、以下の点にご注意頂くようお願いいたします。今年度より変更になっている点もありますので、表紙見返しの「お知らせ」と「お願い」、プログラム 18 頁の「レジュメの作成と注意」と合わせてご熟読下さい。

1. パネル発表のレジュメ（表紙・本文）について

従来、発表者の紙原稿と表紙は代表者が取りまとめて部会責任者に提出していましたが、今年度より、電子データも代表者が全員分取りまとめ、期日までに学会事務局にご送信下さい。

2. 日本語を母語としない発表者の方へ

レジュメは、必ず日本語上の精査を受けた上でご提出下さい。

3. 紙原稿でのレジュメの提出について

レジュメを提出する際は、電子データを提出する場合であっても、必ずプログラム 19 頁の表紙と本文をホチキス止めし、（フロッピーディスクを提出される方はそれを添えて）部会責任者まで提出して下さい。紙原稿の表紙と本文を提出せずに電子データだけをメールで送信しても、『宗教研究』への掲載はできません。

4. レジュメの電子データについて

レジュメ本文をパソコンで作成される方は、電子データもご提出下さい。その際、レジュメ表紙の電子データも合わせてご提出下さい。レジュメ表紙の電子データは、学術大会実行委員会ウェブサイト (<http://syu-hi.logos.tsukuba.ac.jp/jars2008/>) からダウンロードしたものに記入下さい。

5. 電子データに使用するフォントについて

レジュメの電子データを提出される方は、日本語フォントをMS明朝として下さい。